

まちづくりシンポジウムが開催されました!!

第2回「これから」シンポジウムまちづくり! 今の躍動を明日へ!

7/1(土) 市民文化会館小ホールにおいてTMO主催(下田市共催)によるまちづくりシンポジウムが開催されました。

はじめに、基調講演が行われ、天野教授より、事例を交えながら、まちづくりのポイントや景観に対する考え方についてお話がありました。

その後、パネラーによる意見交換が行われ、下田のまちづくりに関する取り組み、考え方、今後の展開などを話し合いました。

当日は、大変盛況で、120名の皆様にご参加いただきました。



まちづくりかわら版 No.12

基調講演「下田の魅力とこれからのまちづくり」

天野 光一 氏 (日本大学理工学部社会交通工学科教授)

- 下田は、市民が誇れるまち、人が訪れたいまちを目指すことが重要ではないか。
- 景観は、地域の特性などを踏まえ取り組み、その物だけを見るのではなく、空間全体を見て考えていく必要がある。(講演内容より一部抜粋)



伊藤 光造 氏 (下田市都市計画審議会会長)

- 最近、制度的にも“市民参加型のまちづくり”の仕組みが整ってきている。
- 全国的に地域の資産を活かしていくところがまちづくりを成功させている。しかしそれは市民の方次第。

清水 直子 氏 (南豆伊豆石トラスト代表)

- 下田には南豆製氷のストーリー、伊豆石で暮らしていた歴史など、魅力がたくさんあるが、市民はあまり認識していない感じがする。
- 今後、“石”ネットワークをつくり、もっと色々な人と連携して、下田市の魅力を高めていきたい。

パネルディスカッション

新堀 学 氏 (NPO地域再生プログラム副理事長)

- 下田は、住んでいる人自らが街をつくろうとしている!
- 今後はみんなが協力し合っていくまちづくりが重要!



「最近のまちづくりの動き・その方向性」

田中 豊 氏 (下田TMO株式会社代表取締役社長)

- 下田はまち遺産がたくさんあるが、それぞれの連携が上手くできていない。
- 今後のまちづくりの上で、南豆製氷所の建物がどうなるかがキーになるのではないかと。

藤井 敬宏 氏 (日本大学理工学部社会交通工学科教授)

- まちづくりを考えていく要素の一つに、交通を考える必要がある。
- 旧町内は通過するだけの自動車が多く、歩くには問題が多い。国道の整備等を行い、通過する自動車を入れさせないことを考えては。今後の取り組みが重要!

【シンポジウム参加者の感想】

- まちづくりの取り組みについて民間レベルでの盛り上がりを感じることが出来た。(下田市20代)
- 一般住民として協力出来ることはないか。体制作りしたい。(下田市60代)

また、会場ではパネル展示を行い、まちづくりに携わる団体の活動内容等を掲示しました。市内外から12団体の応募があり、様々な視点からまちづくりを行っている様子を見ることができました。

これからも、下田市は、今回のように、市民の活動をサポートしていく形で、まちづくり活動を支援していきたいと思っております。

お問い合わせ ▶ 建設課 伊豆縦貫道係
☎22-2219 FAX27-1007
E-mail : kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp

吉田松陰と下田
吉田松陰は、天保元年(1830)長門国萩で下級武士の子として生まれました。幼少より英才の誉れ高く、諸国遊歴の後、江戸で佐久間象山に洋学を学び、欧米列強から日本を守るためには、まず西洋事情を知ることが必要と考えました。



吉田松陰寓寄処

静岡県指定史跡
吉田松陰寓寄処
所在地 蓮台寺
指定日 昭和16年10月27日

年(1854)3月18日、艦隊が入港している下田へとやってきました。
下田での松陰は、皮膚病治療のため訪れた蓮台寺温泉で知り合った村医者村山行馬郎の邸宅(現・吉田松陰寓寄処)や、下田の宿屋に泊まり、時には野宿などしながら、港の様子を観察し、密航の好機を待ちました。
3月27日深夜、小船で湾内に停泊するポーハタン号に漕ぎ着けた2人は、便乗を懇願しました。しかし、日米和親条約を結んだ直後でもあり、海外渡航禁止という日本国の法に背くことはできないと断られ、陸に送り返されてしまいました。翌日、2人は自首し、取り調べを受けた後、4月11日に江戸伝馬町の牢へ送られました。
国禁を犯した罪により郷里萩の獄に収容された松陰でしたが、その後、松下村塾で教え、高杉晋作や伊藤博文など、明治維新に活躍した人物を多く育てました。安政の大獄に連坐し処刑された松陰は享年

下田市内の指定文化財

30歳でした。
吉田松陰寓寄処
築二百年を経た茅葺屋根の古民家で、村山行馬郎の子孫によって代々引き継がれてきました。昭和16年に吉田松陰の足跡を偲ぶ史跡として静岡県指定され、現在、室内には血や行灯などの当時の日用品や、医者行馬郎の遺品などが展示されています。



吉田松陰寓寄処の室内

アクセス
下田駅より蓮台寺方面バス
弥五平口バス停下車徒歩3分
入場料 小・中学生 50円
一般(高校生以上)100円
休館日 毎週水曜日・年末年始
公開時間 午前9時～午後5時
問合せ先
教育委員会生涯学習課
☎5055

樹のまち vol.56

『第28回国際カジキ釣り大会』が下田港を拠点に盛大に開催されました。伊豆沖を回遊するカジキマグロを対象にして第1回大会が昭和54年に三宅島にて始まり、昭和60年の第7回大会から下田で開催されています。4年前の第24回大会は台風の影響で2日間の開催になりましたが、水温が高く、重さ184キロ、全長3メートル40センチの大会を含め29匹の釣果があり、大会が大変盛り上がりつつあったのを思い出します。第26回大会は28匹と、参加艇の数からいっても下田のカジキ釣り大会は今や世界最大規模となっています。今年も全国からオーナーボート、地元の手約600名がトロリングによるカジキマグロとのゲームフィッシュを3日間繰り広げました。私も横須賀市の『ペリール陸祭』に出席した翌日の最終日、顔を出してみました。下田港の活性化『開国マリーナ』構想を練ってきた下田青年会議所主催による『マリンフェスタ』が同時開催され、船によるカジキ釣り大会見学ツアーや海から見た下田体験クルーズでは親子

連れらが下田の海の魅力を楽しみ、海上保安部の巡視船『みづのしほ』の一般公開もあり、伊藤英明主演人気テレビドラマ『海猿』が撮影された船内にはロケ写真も展示されており興味深く見学することができました。フリーマーケットには多くの露店が並び、観光客、市民で賑わっていました。天然の良港に恵まれた下田、美しい口ケーションを持つ海を中心としたこのような素晴らしいイベントに市民として参加できることをうれしく思います。
今年の国際カジキ釣り大会は、あいにく水温が低く、釣果は3匹にとどまり歴代ワーストの結果となりましたが、岡田順三ジャパンゲームフィッシュ協会会長は「自然相手ですから仕様が難しいです。でも下田は最高です。この大会を通じて日本一のカジキの町にしたいですね」と熱く語っておられました。永い間、協力してこられた人徳丸の田中克佳船長をはじめ漁協須崎青年部・料飲組合・街おこしカジキサポータークラブの皆さん達のおかげと心から感謝申し上げます。



下田市長 石井直樹